

講師紹介 02

INTERVIEW

Q

今の事業所(会社)がやっている業務内容と、自分自身のお仕事内容を教えてください。

会社として、企業のシステム部に不足しているIT人材を派遣してサポートしたり、システム開発の要員を提供したりしています。IT人材の不足している企業に人を提供する業務を行っている。
私自身、お客さんとなる企業のシステム部の一員として、システムに関わる業務周りのサポートをしています。一緒に現場の業務にITを導入して課題を解決取り組みをしています。



Q

中学2年生の時はどのような学生でしたか？

勉強もそこそこに好きな事を突き詰めていた学生でした。数学であったり、趣味の囲碁であったり、読書であったり、友達となんやかんやしたり充実していた時期です。学生としてはどこにでもいる普通の学生だったと思っています。



Q

進路について考え始めたのはいつ頃ですか？

高校1年生の時期、勉強内容に得意・不得意、好き・嫌いが顕著に表れて来た時から本格的に進路について考えるようになりました。正直な所、中学に上がる時点で、理系の大学に進学するまでは決めていました。



Q

この地域ではなく、都会で働きたいとは思いませんでしたか？

実際の所、東京に勤めていた時期(8年間)、その後、名古屋で勤めて今に至り、多くの期間を都会で働いています。つまり、この地域に住みながらも都会で働くこと自体は可能です。都会で働く人とモノ、情報が膨大に溢れており否が応でも多くの刺激を受けて毎日を過ごす事になります。目的を持って一時的に働くには丁度良いと思っています。



Q

この地域の良さは何だと思えますか？

人と人との繋がりが都会ほど疎遠ではないこと、自然が豊かであること、水がおいしいということ、ご飯がおいしいこと、ある程度必要な施設等は揃っていること、……etc.



Q

今の仕事に就くために、何をしましたか？

大学の就職活動において、自分のキャリアデザインを見直し、仕事の適正等を考慮しました。この仕事を一生続けて行くんだ、この会社で定年まで頑張る、と言った感じでもなく、この先、10年、20年仕事を続けていけるか、この職種・業界がこの先、発展するか等を調べました。最後は興味があるからやってみようという軽い気持ちで決めました。
決めてからは、基本的なスキル・知識取得の勉強をしていた記憶があります。



Q

今の仕事の大変なところと、やりがいを教えてください。

IT業界の仕事の大変なところ、以下の2つです。
① 日進月歩な技術の進歩 → 常に業界の動向にアンテナを張り情報収集をしていかないと気づいたら浦島太郎状態になってしまいます。
② プログラムは嘘つかない。 → バグ(不具合)があったとしても、それはソースコードに書かれた通りにしかコンピューターは動きません。原因調査のためにソースコードを調査する時、終わりが見えない時があります。
IT業界の仕事のやりがいについて、以下の3つです。
① 常に新たな可能性が切り開かれていく希望に満ちている
② 使用者(お客さん)の喜び・満足の声
③ システムが思った通りに動作した時



Q

その業界の仕事に就くためには、どうすればいいですか？

現状、高卒、専門卒、大卒など、どのタイミングでもIT関連の企業に就職希望をすれば入ることはできます。ITの業界においては、慢性的な人材不足が続いており、これは10年後も続いていると言われています。そのため、正直なところ、IT業界の仕事に就くのは簡単です。
ただし、何も準備せざることはおススメしません。その仕事に就く事が目的となつては意味がありません。IT業界で何を成すのか目的を持って就職する事をおススメします。でも、この業界で今働いている人たちがみんなそれを出来ていた訳ではありませんし、それに対して、悲観する事もあります。まずは、IT関連資格の取得や、英語や数学の勉強をしておく事をおススメします。



Name

大杉 徹

Birth.

1985.7.6

Born

大垣市

Live

大垣市

Company

株式会社イエンジニア
(名古屋市)

Studies history

岐阜東中学校
岐阜東高等学校
山口大学理学部数理解科学科

Work history

東京のIT会社
名古屋のIT会社
今に至る